



営農NEWS



ナス栽培で各種害虫の発生に注意しましょう

本県のナス栽培は、一部に施設を利用した周年栽培もありますが、主体は露地栽培です。

定植時に処理した薬剤の効果が切れてきて、気温が上昇してくると、各種の害虫（アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類、ホコリダニ類、オオタバコガ、ハモグリバエ類など）の発生が増加してきます。

これらのうち、微小な害虫は発生を確認することがなかなか困難ですが、見逃して多発生すると難防除となってしまいますので、圃場を丁寧に観察して早期発見に努めるとともに、発生初期からの防除を徹底してください。

<被害と早期発見のポイント>

- 1 アザミウマ類は、主に葉や花卉を加害するヒラズハナアザミウマ、葉、へた、花卉などを加害するミカンキイロアザミウマ、葉、果実、へた、果梗などを加害するミナミキイロアザミウマなどがあり、加害種によりやや症状が異なります。まずは、早期発見に努めましょう。遅れると、葉にかすり状の傷ができて、激しいと茶褐色に変色して落葉し、果実ではガク部を中心に変色や亀裂を生じて、商品価値を失くします。
- 2 コナジラミ類は、葉や株をゆすると、白い羽の微小な虫が飛びだすので発見しやすいです。直接の吸汁害による生育抑制と、排泄物によるすす病の発生が問題となります。
- 3 アブラムシ類は、ワタアブラムシやモモアカアブラムシなどが、主に葉裏や展葉の先端部に寄生します。多発生すると葉の表面に脱皮殻やすす病が付着し、生育が抑制されます。各種のウイルス病を媒介するので、注意が必要です。
- 4 ハダニ類は、主に葉裏に寄生しますが、葉表から見ても脱色カスリ状に変色します。初期は下葉に寄生しやすいので、これを早く発見するようにします。
- 5 チャノホコリダニは、生長点付近の葉が奇形となる他、葉裏がツヤのある淡黄色に変色して裏側に巻き込んで、激しいと芯止まりになります。果実は、ガクや果梗部分に変色し、果面がサメ肌状になります。虫は0.2mm前後なので、ルーペでも観察が困難です。一度芯止まりになると回復に長期間を要するので、大きな減収となります。
- 6 オオタバコガは、若齢幼虫では新芽や花を食害しますが、すぐに果実内へ食入します。齢期が進み、食害量も多くなると、次々と新しい果実に移動しますし、茎の中にも潜入するので、被害が大きくなります。ハスモンヨトウは、主に葉を暴食しますが、老齢幼虫は果実も加害して大きな被害となります。
- 7 ハモグリバエ類は、幼虫が葉肉内を食入する被害（いわゆる「絵かき虫」）で、ナスでは葉が黄化して落葉しやすくなるので、早めの防除に努めます。

表1 ナス定植後の生育期における各種害虫の主な防除薬剤

(令和2年6月10日現在)

薬剤名	アザミウマ類	コナジラミ類	アブラムシ類	ハダニ類	チャノホコリダニ	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類	分類
アフーム乳剤	○	○		○	○	○	○	○	6
アグリメック	○	○		○					6
ディアナSC	○	○				○	○	○	5
モベントフロアブル	○	○	○	○	○				23
グレーシア乳剤	○	○		○	○	○	○	○ ^{トマトハモグリバエ}	30
ファインセーブフロアブル	○	○ ^{タバココナジラミ類}							—
コテツフロアブル	○ ^{ミカン・ミナミキイロ}			○	○	○	○		13
ウララDF	○ ^{ミカンキイロ}	○	○						29
プレオフロアブル	○					○	○	○	un
コルト顆粒水和剤		○	○						9B
スターマイトフロアブル				○	○				25A
カネマイトフロアブル				○	○				20B
マイトコーネフロアブル				○					20D
プレバソフフロアブル5						○	○	○	28
アタブロン乳剤	○ ^{ミナミキイロ}					○	○		15
カスケード乳剤	○ ^{ミナミキイロ}			○				○ ^{マメハモグリバエ}	15
スタークル顆粒水溶剤	○	○	○						4A
ベストガード水溶剤	○ ^{ミナミキイロ}	○	○						4A
スタークル粒剤		○	○						4A

注) 1. 表中のミカンキイロやミナミキイロは（アザミウマ）を略して表示しました。

2. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040